PREX NOW

PREX
Pacific Resource Exchange Center

途上国と関西をつなぐ　VOL.243

特集：3S・カイゼン研修

日本のカイゼンをモンゴルに。

「3S活動について」（タナカテックにて）

3S活動が、

研修参加者の声

モンゴル
コンサルタント
アルタンフヤグさん

3S活動（整理・整頓・掃除）は、誰にでもできる。しかし、やり続けることは簡単ではありません。

モンゴル日本センターの講師として、またコンサルタントとしてモンゴルの企業に3Sを指導しているアルタンフヤグです。2016年にPREXの研修で、㈱タナカテックを訪問したときは、「1カ月、学ばせてください」と社長にお願いしました。タナカテックは、3S活動に30年間に亘って取り組んでいて、なぜそんなに長く3Sを続けられたのか、知りたいと思ったのですが、研修では1日しかいられなかったからです。

モンゴルには3S活動に関心のある企業が多くあり、研修後はタナカテックで学んだことを、企業に指導しています。活動を通して、社員が自ら考え、自信をつけていっていると実感する場面もあります。モンゴルには、3S活動を長く継続している企業はまだありません。タナカテックの社長に、モンゴルに来てもらい、モンゴル企業に、どうすれば3Sを長く続けられるのか、その秘訣をぜひ講義してもらいたいです。

（↓モンゴルの企業で取り組んだ3S活動）

3S活動こそが、会社の財産である人材を育成し、わが社の根本を作っていると信じています。

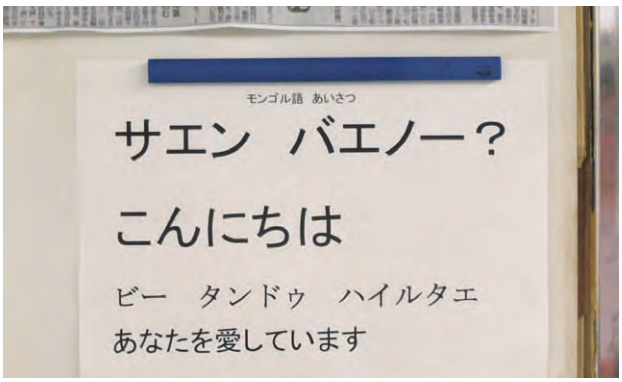
タナカテックの田中真輝です。社長の息子であるため、3S活動とは何かを講義してほしいといわれることが多いのですが、正直、よくわかりません。3S活動は人を育てるもの。人の成長が会社の成長ですから、会社にとって継続しなくてはならないもの、ということは確かです。

３S活動に取り組み始めたのは、30年前。当時は、利益が10倍になり、新聞や雑誌の取材も受けました。30年間、経営が、山あり谷ありであるように、３S活動も山あり谷ありでマンネリであることも日常です。でも3S活動は継続しています。

継続の秘訣は、100点を目指さないこと。活動は、10点でも、20点でもいい、全員でなくてもいい、チームの中の1割でも一生懸命に取り組むメンバーがいれば、周りはその人についていきます。もう一つ継続できた理由は、わが社がものを作る会社だからかもしれません。対人の仕事は、完成形が目に見えませんが、ものづくりは完成したものが目に見えます。社員は、一つ一つの仕事を自分の腕で完成させていきます。納期もあるので、時間の無駄をなくし、素材の無駄をなくし、より早く、より効率的に、より良いものづくりができないか、と追求しています。そのため、職員全員が3S活動の必要性を理解していて、結果として続いているのだと思います。

知識、技術、金、モノを正しく生かすのは「人」です。人が成長しなくては、企業も成長しません。わが社にとっては、３S活動は「人」を育てる活動です。３Sそのものが目的ではありません。

工場内の表示を説明中の「3S侍」社員



研修当日の出迎え時の挨拶は、モンゴル語でした。

国際交流

日本は、中央アジアに、中立的にアプローチできる立場にあるのではないでしょうか。

旧ソ連の国では、日本の戦後の復興とその後の経済発展が有名です。現在の日本や、日本の人々の生活の質の高さへの関心も高いですね。

ソ連時代は「科学的労働組織」という、政府がトップダウンで労働管理し工場や職場で実践するやり方がありました。現在は政府主導のものはなくなりましたから、業務プロセスの改善や生産性向上のためのアプローチ方法として、カイゼンや3Sなどが注目されているのかも知れません。
ロシアでもカイゼンについての本はたくさん出版されていて、指導するコンサルタントやその協会も生まれています。

中央アジアから日本には、経済基盤を支えるインフラ整備、資金・技術協力、制度の支援や経営ノウハウ提供さらに対外経済関係面での協力が期待されています。
ロシアと中国という大国の間にある中央アジアにとって、日本が関わることで地域が安定することにもつながります。日本には政治的でない関わり方を期待したいですね。

（ベロフ教授）

ベロフ・アンドレイ氏：1959年現在のロシア サンクトペテルブルグ出身。
レニングラード国立大学大学院博士課程修了。
北海道銀行、北海道地域総合研究所などを経て1998年より福井県立大勤務。同大学教授。

談　議。

キルギス人の精神性は日本人とも近いのではないでしょうか。

キルギスは独立後、政権が変わるなど困難な時期が続きました。そんなキルギスにとって、人々が実際に自分の目で見て経験して、キルギス以外の国を知ることはとても大事です。
キルギス人の精神性は日本人とも近いのではないかと思います。ホスピタリティや人間関係・家族関係など似ていると思うところもあります。
そんな日本が独自の伝統や文化を上手く活かしながら近代的に転換しているところは、キルギスの参考になると思っています。

中央アジアの人々は、本で読んだことが、日本でどのように実践されているのかに関心が高いのです。 日本の皆さんにとっては当たり前過ぎて「どう紹介していいのか分からない」とおっしゃる方が多いのですが、研修員はそこからヒントを得て、ビジネスに活かすことができるのだと思います。

キルギスにとってとロシアは歴史的・経済的に、切っても切れない関係にあり、中国は大変積極的です。 でもキルギスでは、日本の 長期的な視点での考え方や手法は ブランド化しているともいえます。キルギスの政府関係者からも、「どうすれば日本がもっと積極的にキルギスに来てくれるか？」とよく聞かれ ますよ。　（ナザルマンベトワさん）

ナザルマンベトワ・アセーリ氏：キルギスの大学で日本語を専攻。2005年からの日本留学を経て、現在は東京で在日キルギス人協会、在日キルギス商工会議所代表などを務めている。

「カイゼン」と日本での学びが心の支えに。

2010年2月、
和太鼓の高校生チャンピオンチームと。

日本からシリアに派遣されていたJICAのシニアボランティアとの出会いが、私にとって日本との最初の接点です。その後、2010年に、PREX実施の研修に参加する機会を得ました。研修の内容は期待以上で、全ての科目が大変興味深く面白いものでした。講師の方々は経験や知識が豊富で、PREXやJICAの皆さんも親しみやすい人々で、真の友人となりました。
カイゼンや5S、見える化、カンバン、提案活動、生産管理、そしてPDCAサイクルの重要性も知りました。
帰国後は、学んだことを職場や生活の中で実践し始めました。工場ではシニアボランティアのサポートも受け、3S活動を始め、他の帰国した研修員と協力しアレッポでワークショップを実施するとともに、アラビア語でカイゼンのテキストを作成し、JICA同窓会の支援で印刷もできました。しかし、その後シリアで始まった戦争によって、私の工場、そしてカイゼンや3S活動の全てを失いました。それから5年間、私も従業員も破壊と狂気の中で自分を見失いつつありました。しかし、我々はまだ生きています。私が日本の経験から学んだ最も重要なことは「人生は進み続ける」ということです。アレッポは厳しい状況ですが、日本が第二次大戦の甚大な被害から短期間で復興し成長したように、私たちもきっと立ち上がります！最近も商工会議所や大学でセミナーを行っています。この悪夢が終わりを迎え、日本の皆さんと再び手に手をとって友人関係を再開できる時がくること、それが私の夢です。（イマード・ハイダル）

イマード・ハイダル氏：シリア・アレッポにあるYaman, Fancy yarns & Tufts 創業者・オーナー。
2009年度「JICAシリア総合経営管理研修」に参加 。

※5Sとは：整理・整頓・清掃・清潔・躾のことで、それによって、従業員の考え方や行動の質など、会社の文化を変えて、管理レベルの向上をさせようとするもの。3Sは、この中の最初の３つ（整理・整頓・清掃）をさし、5Sの基本とも考えられています。

PREXの仕事は、行政官や経営者、夢を持つ人同士をつなぐ架け橋となる仕事。

小さい頃から人を応援するのが好きでした。PREXで働いていて、国内外を問わず、やる気のある人をつなげ、彼らが刺激しあい、成果を出せるようサポートできることが、とても嬉しいです。研修員が、報告してくれるどんな小さな成果も、私にとっては大きな喜びです。学生時代は、開発学を学び、バングラデシュでノーベル平和賞を受賞したムハマド・ユヌス氏のもとで起業家を支援したこともあります。途上国には、目標も希望もあるのに、お金や地理的要因によって、目標の達成が難しい人が多くいます。自分に何ができるのかという問いに対し、人をつなげることではないかと考えるようになりました。「よい経営者がいれば、そこに雇用が生まれ、人が人として生きる機会が与えられる。良い経営者が、どんどん増えれば、世界を変えることができる」。私の信念です。研修で、日本の中堅・中小企業を訪問します。日本は「景気が悪い」と言われていますが、輝いている企業や経営者、社員の方々が本当に多くいらっしゃいます。彼らは、研修員や私たちPREX職員ひとりひとりを、「人」として認め、飾らず、ありのまま接してくださいます。社員を大切にする姿勢、みんなの会社という考え方等々、「かっこいい！」です。日本は、これらの中堅・中小企業の方々がいる限り「希望の持てる国」。日本企業の経営者に刺激を受け、かっこいい行政官や経営者を世界に増やしていきたい、というのが私の想いです。（PREX　国際交流部　藤田）

NEWS &TOPICS

事務局からのお知らせ

夏の日差しに負けない熱い想いを届けたい。
今月号は、「３Ｓ・カイゼン」をテーマに株式会社タナカテックへの訪問、中央アジアをテーマにした国際交流対談、ＰＲＥＸスタッフの想い、最新ニュースやトピックスなど盛りだくさんの内容をご紹介しています。特にシリアの帰国研修員は、厳しい状況の中でも日本から学んだこと、カイゼン活動をシリアで伝える取り組みを続けており、応援を続けたいと思います。

研修員からのお土産 組み立て完成！どこの国のお土産でしょうか？

答えはキルギス！　「ユルタ」という中央アジアの移動式住居のミニチュアをいただきました。ユルタはキルギスの伝統として愛されていて、国旗のデザインにも使われています。

タナカテックのアイドル紹介。

猫のたまちゃんが、タナカテックに来るようになったのは2年前。田中社長をはじめ、社員の癒しの存在だそうです。猫もリラックスできる工場とは、すごいですね。

PREX第２回写真コンテスト！

ナイジェリアのオリマンさん（最前列）が撮影した田代珈琲㈱の社員の皆さんとの笑顔いっぱいの写真が第１位でした。

ＪＩＣＡコラボデスクをご利用いただけます！

グランフロント大阪ナレッジキャピタル・コラボオフィスにある「JICAコラボデスク」では、中小企業の皆様に活用いただける海外展開支援のための個別相談やセミナーを行っています。ぜひご活用ください！

※詳細はこちらのウェブサイトから。
https://www.prexhrd.or.jp/seminar/

PREXカイゼン活動推進中！

PREXでは2015年度から全員参加で改善活動に取り組んでいます。2016年度の最優秀賞は、ごみ箱周辺の整理でした！

PREX NOW第243号（2017年7月発行）
編集・発行：公益財団法人　太平洋人材交流センター
専務理事・事務局長　岡本　譲
〒543-0001 大阪市天王寺区上本町8-2-6
大阪国際交流センター2階
TEL. 06-6779-2850
ホームページ：http://www.prex-hrd.or.jp
E-mail：prexhrd-pr@prex-hrd.or.jp
企画制作：ユナイテッド・トゥモロー